

プロジェクト名称

石垣島赤土問題～サンゴ保全アクションV～

プロジェクト活動概要

石垣島は世界でも貴重なサンゴ生息域となっている。本プロジェクトは赤土流出という視点から石垣島のサンゴ礁保全を行っているが、国や県からの十分な補助金が得られない等の理由から赤土流出対策はされておらず、サンゴ礁の白化・死滅をもたらしている。そこで私たちは農家の収益を上げる取り組みを考え、石垣島の直売場と食堂を一つのマップに掲載した「地産地消マップ」を作成した。このマップを石垣島の方々や観光客に利用してもらうことで農家にお金が落ちるといシステムである。2010年度から地産地消マップの配布を開始し、また今後もマップの問題点を改善し、配布活動を継続していく。

活動状況報告 & 活動写真など【活動期間:2011年6月1日～9月30日】

8月25日～9月3日までの10日間、学部1・2年生の計8名が石垣島にて現地調査を行った。春期に配布した「地産地消マップ」の配布状況を確認するため、島内のマップ設置場所(直売所・ターミナル・ホテルなど)を周り、現地の方々から直接意見を聞くことができた。また石垣市商工会からは、「アトム通貨」と関連づけた取り組みを提案していただき、これからのマップの方向性を広げることができた。この「アトム通貨」は地域活性化させるために生まれた地域通貨のことで、石垣市内で2011年8月から導入が開始された。今後はマップの可能性を最大限にするべく、「アトム通貨」をはじめ、回収したアンケートや地域の方々の意見を基に改善に努める方向だ。

また、今回はFMIいしがきサンサンラジオへの出演、WWF(しらほサンゴ村)主催のイトバショウ植え、農家の方や石垣の行政に携わる方々とのコンタクト等、普段の活動ではできない、地域に密着した活動をすることができた。このプロジェクトが8年目を迎えた今、よりよい方向に活動を展開させるには多くの知識とミーティングを要する必要がある。今回の現地調査を経たことで、現状だけでなく沢山の課題があることも目の当たりにした。この経験を今後の活動に活かし、サンゴの保全につなげていきたいと思う。



今後の活動計画、目標、意気込みなど

今回の活動では地産地消マップ設置場所との連携が不十分であったこともあり、マップの管理が徹底されていない箇所が数カ所見受けられた。より一層効率よくマップを配布するためにも、マップ設置場所との情報の共有が必要となる。

また今回のヒアリング・アンケート等の現地調査から得られた情報を基に、マップの改善を行い、来年3月に新たなマップ作成し、配布を目指す。地産地消マップの目的は、農家の収益向上からグリーンベルトなどの対策を行ってもらうことだが、収益の向上が直接サンゴ保全に繋がることは難しい。ゆえに今後はマップによるシステムの構築だけでなく、あらゆる方向からサンゴ保全に取り組めるよう、努めていきたいと思う。

活動写真



写真1. FMいしがきサンサンラジオ出演



写真2. 赤土流出対策植物
イトバショウ植えへの参加

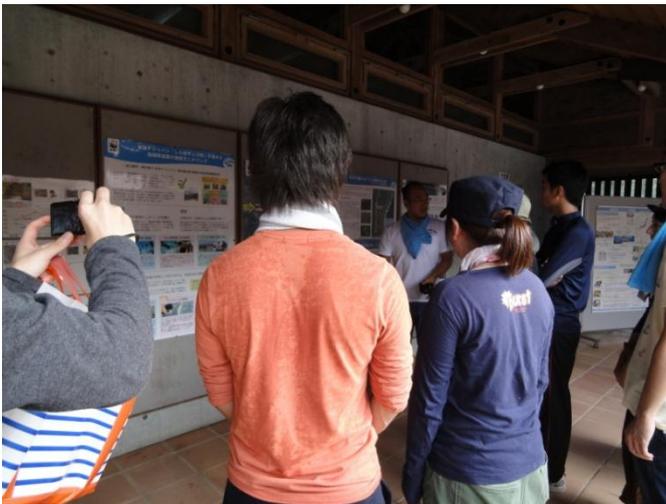


写真3. 明治学院と合同研修会



写真4. 赤土流出対策植物
ゲットウの観察